

2018年神奈川県生協連賀詞交歓会 當具伸一会長理事挨拶

あけましておめでとうございます。

本日は、私ども生協の運動を支えて頂いている行政や議会の皆さまをはじめ、諸団体、協同組合関係の仲間の皆さまに、大変お忙しい中、ご参加いただきました。

誠にありがとうございます。

さて、2015年に国連総会で「持続可能な開発のための2030アジェンダ」SDG s が採択されました。そこには貧困や不平等の解消、持続可能な経済・社会の実現、地球環境の保全、平和と公正な社会の確立等という17の目標が定められています。その基本理念は「誰一人取り残さない」というものです。

昨年の国際協同組合デーで、ICA国際協同組合同盟は「協同組合はだれも取り残されない社会を実現します」をスローガンに掲げました。SDG s が掲げる「誰一人取り残さない」とする基本理念と17の目標は、私たち協同組合自身のテーマであります。そしてSDG s では協同組合を重要な担い手として明記しています。

だれもが安心して暮らせる社会を実現するために、協同組合が役割を果たしていくこと、その取り組みに社会から期待が寄せられていることについて皆さまと確認したいと思います。

この間の私たちの取り組みから3点お伝えします。

1つ目は、昨年3月、県内の農協、漁協、生協が“すみよい神奈川づくり”に向け30年以上にわたって進めてきた提携活動のさらなる発展をめざし、地域の協同組合や連携する団体85組織の参加によって、神奈川県協同組合連絡協議会が発足したことです。協同組合に寄せられた期待に応えられるよう、地域での協同をより強めてまいりたいと思います。

2つ目は、協同組合や労働福祉団体、市民福祉団体によって神奈川におけるフードバンクの中間組織を今年4月にスタートさせることです。十分安全であるにも関わらず廃棄されてしまう食料の寄贈を受け、支援を必要としている人に届けます。地域の助けあいを広げ、食品ロスの削減と社会福祉の増進をめざします。

3つ目は、平和を願い、核兵器の廃絶をめざして被爆者の皆さまとともに取り組んできたことです。昨年は核兵器禁止条約の採択、核兵器廃絶国際キャンペーンICANのノーベル平和賞受賞など、核兵器の廃絶に向け画期となる年でした。神奈川県原爆被災者の会に寄せられたヒバクシャ国際署名は、神奈川の生協からお渡しした分を含め31万3千筆余にのぼりました。引き続き核兵器廃絶の声を広げてまいります。

このように、誰もが自分らしく安心して暮らせる社会、誰もが排除されることなく心豊かに暮らせる社会の実現を、生協の、そして協同組合全体の大切な課題として取

り組んでいきたいと思ひます。

一人は万人のために、万人は一人のために。

本年も多くの皆さまと手を携え、地域社会からの信頼と期待にお応えできるように、より一層励んでまいります。

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。